

**口頭申し送りを削減して見えた効果**  
**～電子カルテによる情報共有の検討～**

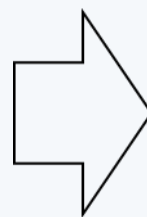
# はじめに

働き方改革・業務効率化の観点から、  
電子カルテ上のツールを活用し、申し送りを廃止する病院が増えている

申し送りを削減



情報共有以外の  
時間を確保



- ・看護ケアの充実
- ・より充実した記録
- ・多職種との連携

# 目的

- 看護ケアの充実
- 記録の充実
- 多職種との連携強化

# 研究方法

- 1, 現状の申し送り時間の把握
- 2, アンケートの実施
- 3, **情報の整理**、優先度の高い情報の共有方法の検討

- ①: 患者マップのベッドコメント機能の活用
- ②: 当日のみ使用する申し送り用紙
- ③: リーダー同士が口頭で伝達する

- 4, 患者コメントの活用、個別な申し送り事項の入力

記載内容 **看護トピックス**: 日常の留意点  
**申し送り**: 病状に関わる具体的な内容

# 研究方法

## 3, 情報の分析と整理

### • 優先度の高い情報

- 患者の病状に関わる内容
- インシデント
- ケア時のリスク
- 治療内容や食事内容

### • 優先度が低い情報

- 変化が少ない情報
- 日常の留意点
- 間食可
- 所在確認あり

# 研究方法

- 1, 現状の申し送り時間の把握
- 2, アンケートの実施
- 3, 情報の整理、優先度の高い情報の共有方法の検討

- ①: **患者マップのベッドコメント機能**の活用
- ②: 当日のみ使用する申し送り用紙
- ③: リーダー同士が口頭で伝達する

- 4, 患者コメントの活用、個別な申し送り事項の入力

記載内容 **看護トピックス**: 日常の留意点  
**申し送り**: 病状に関わる具体的な内容

# 患者マップのベッドコメント機能

<b>B</b>		<b>C</b>	
● テスト タロウ		● 北古賀 テスト	
<b>A</b>		<b>D</b>	



ベッドにカーソルを合わせる

<b>B</b>		<b>C</b>	
● テスト タロウ		● 北古賀 テスト	
<b>A</b>		<b>D</b>	

● ベッドコメント  
3/14 転落

# 研究方法

- 1, 現状の申し送り時間の把握
- 2, アンケートの実施
- 3, 情報の整理、優先度の高い情報の共有方法の検討

- ①: 患者マップのベッドコメント機能の活用
- ②: 当日のみ使用する申し送り用紙
- ③: リーダー同士が口頭で伝達する

- 4, 患者コメントの活用、個別な申し送り事項の入力

記載内容 **看護トピックス**: 日常の留意点  
**申し送り**: 病状に関わる具体的な内容

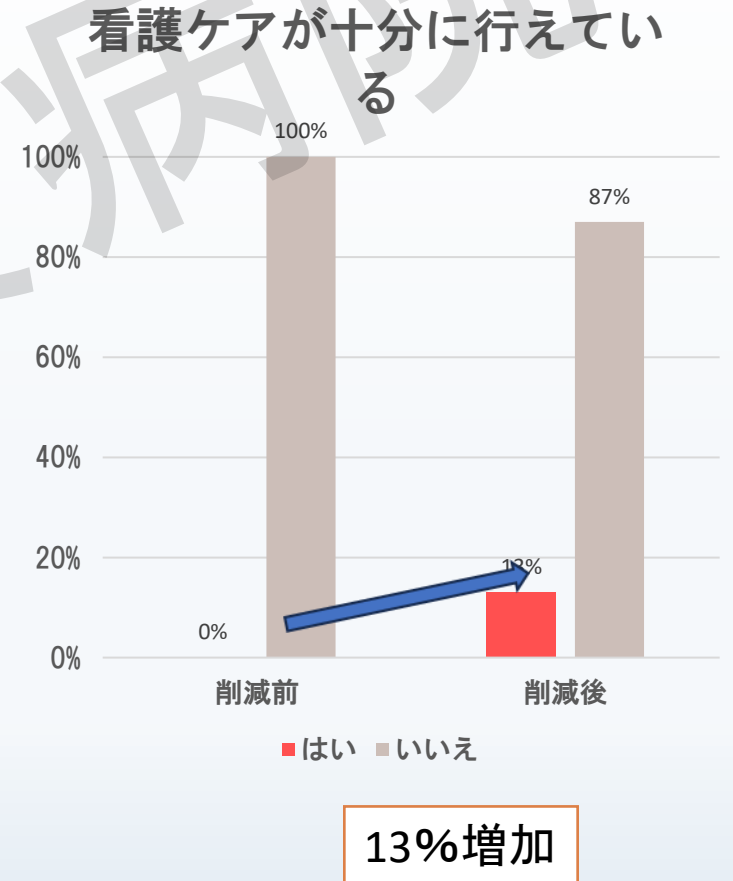
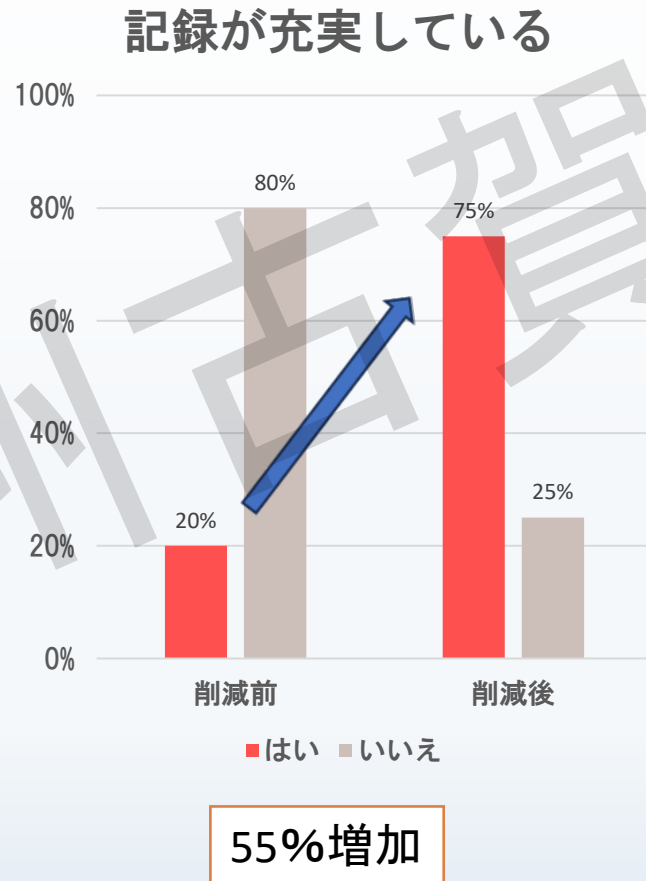
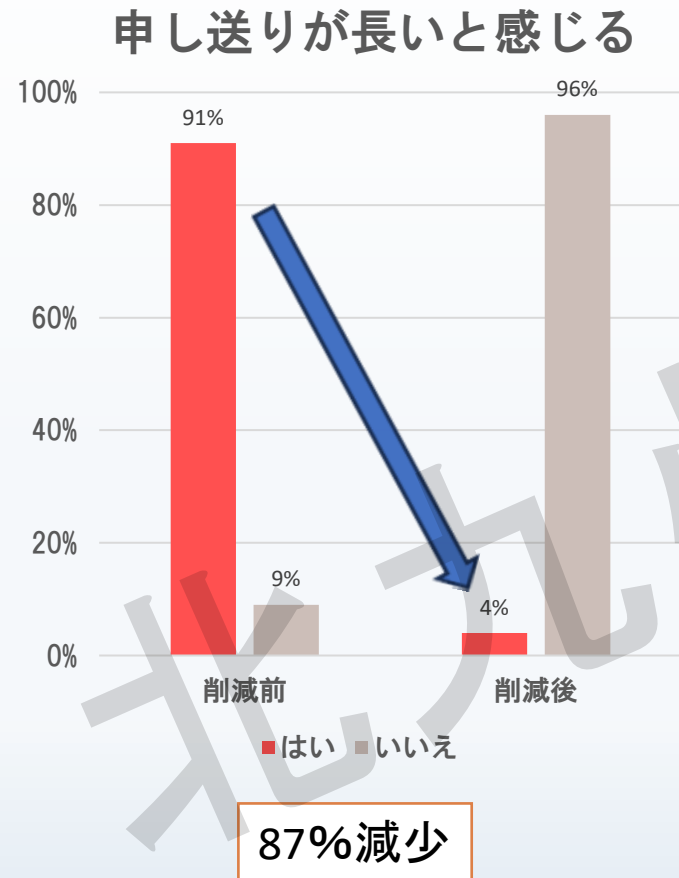
# 患者コメントの例

□患者コメント				×
≡				閉じる
表示条件				新規
確認	種別	部署	コメント	専用メモ 新規
<input type="checkbox"/>	患者メモ	看護師	<p>■■■看護トピックス■■■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3/26 コロナ陽性 隔離開始(Pトイレ使用)</li> <li>・3/25 嘔吐、補液管理、絶食</li> </ul> <p>★★★★申し送り★★★★</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間食可</li> <li>・右下肢完全免荷</li> <li>・カバー柵(南4よりレンタル中)</li> <li>・専用トイレあり317号</li> </ul>	

# 患者コメントの例

□患者コメント				×	
≡				閉じる	
表示条件	新規			専用メモ	新規
確認	種別	部署	コメント		
<input type="checkbox"/>	患者メモ	看護師	<p>■■■看護トピックス■■■</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・3/26 コロナ陽性 隔離開始(PTイレ使用)</li><li>・3/25 嘔吐、補液管理、絶食</li></ul> <p>★★★★申し送り★★★★</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・同食可</li><li>・右下肢完全免荷</li><li>・カバー柵(南4よりレンタル中)</li><li>・専用トイレあり317号</li></ul>		

# アンケート結果1



## アンケート結果2

### ・削減したことでのメリット

- ・早く業務に取り掛かれる
- ・情報収集がしやすい
- ・患者のケアが増えた
- ・記録が充実した
- ・自分で情報収集する癖がついた

### ・削減したことでのデメリット

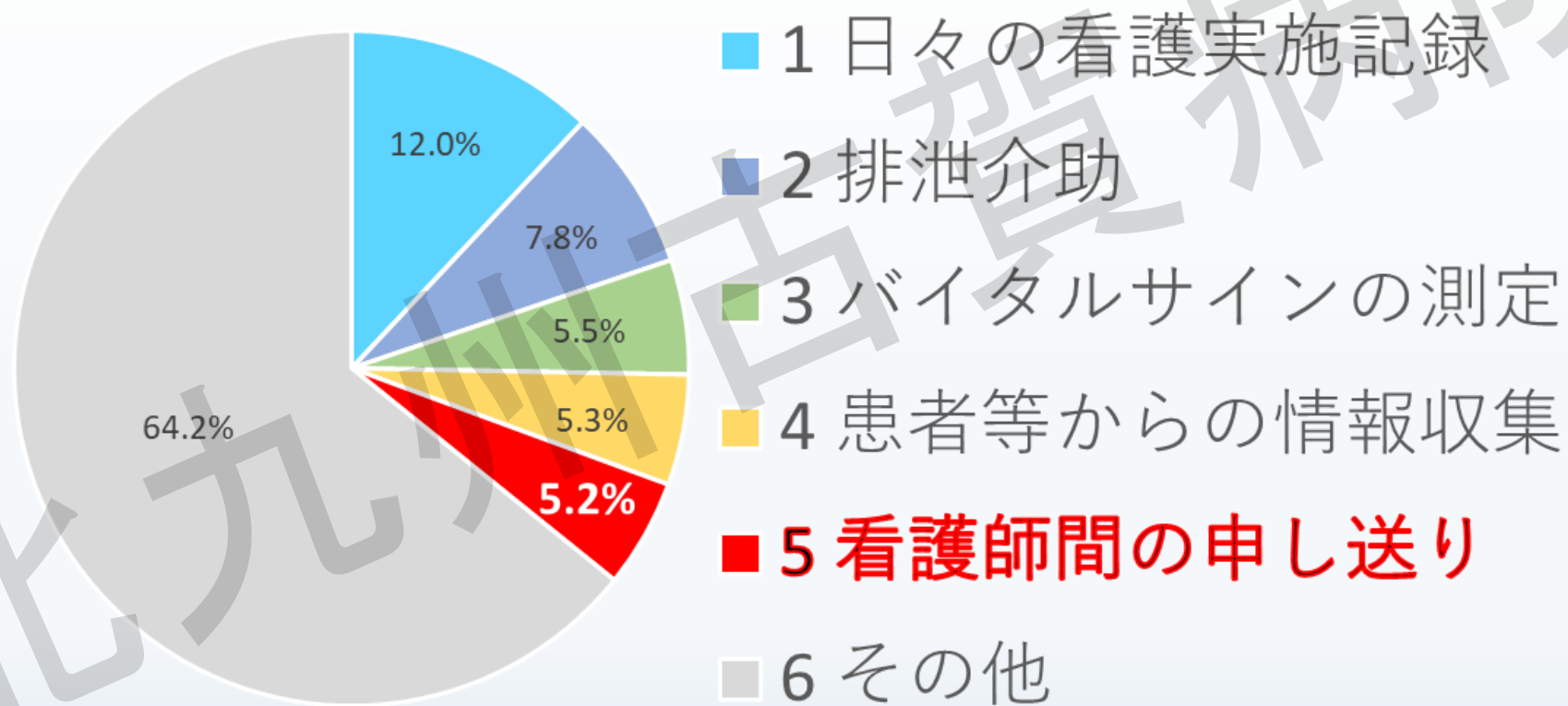
- ・特異なケアが伝わりにくい
- ・多職種との直接的な意見交換をする場がなくなった

# 結果

- ・記録の充実や看護ケアの充実へと繋げることができた
- ・自己にて能動的に情報収集することが習慣づいた
- ・タイムリーに多職種との情報共有が可能になった

# 考察

## 看護業務実施時間の割合



2018年度 厚生労働科学特別研究の調査より

# 考察

## 情報を整理したことで...

- ・優先度の高い情報を得ることが出来た
- ・情報を整理する意識がついた

## 電子カルテを活用することで...

- ・口頭伝達による漏れやエラーが減少した
- ・記録を充実させる必要性の再認識に繋がった

## 今後の課題

- 業務効率化をさらに進め、ケア時間の確保
- 残業で行われている業務の“カンファレンス記録”について  
記録方法の検討
- 多職種との情報共有の方法を再検討

## 参考文献

1) 坂本すが著:効率的な看護業務の推進に向けた実態調査研究<https://share.google/UwQg1F42Enk65iQmr>

## 引用文献

1) 小竹裕子ら著:申し送り時間をベッドサイドケアへシフトする試みー申し送り時間内容を改善してー日本農村医学会雑誌 67 (3) 386-386, 2018年.

2) フレデリック・バートレット著:記憶:実験的、社会的心理学における研究.1932年.

ご清聴ありがとうございました